



今後の介護人材養成の基本的な
方向性に関する論点

今後の介護職員のキャリアアップの在り方のイメージ（案）

【 現 在 】

【 将 来 】

【施設長・介護職員
リーダー】
(10年以上?)

【中堅介護職員】
(3年以上)

【初任介護職員】
(1年～3年程度)

介護職員基礎研修

ヘルパー2級

介護福祉士

専門介護福祉士
(仮称)

介護福祉士
(1800時間課程or3年実務+600時間課程)

600時間課程

介護職員基礎研修
(500時間)

ヘルパー2級
(130時間)

○ 各資格の役割分担が曖昧であり、資格取得がキャリアアップと必ずしも結びついていない。

○ 各資格の役割分担を整理し、各資格とキャリアアップの関係性を整理。

※ あくまで現在の仕組みを前提としたイメージ

今後の介護人材養成の前提

- 今後の高齢化の一層の進行等により、国民の介護ニーズは拡大が見込まれ、社会保障国民会議の「医療・介護費用のシミュレーション」によれば、平成18年の117万人から、平成37年にはさらに95万人～138万人の確保が必要と見込まれている。
- また、介護保険制度の創設以降、認知症ケアや医療的ケアを必要とする利用者は増加するとともに、住み慣れた地域での生活を支援する小規模多機能型居宅介護サービスが新たに創設されるなど、介護人材に求められる役割も多様化・高度化してきている。
- 他方、総体的に労働力人口は減少（平成18年6,657万人→平成42年5,584万人～6,180万人）していくことが見込まれる中で、新規学卒者はもちろん他産業からの離職者など、多様なルートで介護人材を確保していく必要がある。
- これらを考慮し、人材の量的確保と資質向上を両立していくという観点に立って、介護人材の参入の間口は広く捉えつつ、現場職員がキャリアに応じて無理なく資質向上を図ることができるような養成システムを考慮していく必要がある。